

## アイヌタイムズ 第64号 日本語版

---

---

---

### ★ エキノコックス症

北海道には、エキノコックス症という病気があります。道外ではあまり聞かれないものです。エキノコックスという名前の寄生虫が主に肝臓に寄生して、この病気になります。道内では毎年10数名の患者が見つかっています。

<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/402/data.html>

エキノコックスは、主にキツネと野ネズミに寄生しています。キツネの腸に寄生して卵をうみ、その卵が糞と一緒に排泄されます。

野ネズミが木の芽等と一緒にこの卵を食べると、野ネズミの体の中で卵がかえって幼虫となり、肝臓に寄生します。この幼虫が寄生している野ネズミをキツネが食べると、キツネの腸の中で幼虫が成虫になります。また、犬もキツネと同様に、エキノコックスに感染した野ネズミを食べることにより、エキノコ

ックスの成虫が寄生します。

人間は、エキノкокスの卵に汚染された山菜や沢水などを直接口にしたり、卵が付着した手指を介して感染します。野ネズミと同様にエキノкокスの幼虫が肝臓に寄生します。

人から人に感染したり、野ネズミから人に感染することはありません。エキノкокスの卵は、直径0.03mmの球体で見えません。十分な加熱（60℃10分以上）や水洗い（手洗い）で、感染を防ぐことができます。

人にエキノкокスが感染しても、すぐには自覚症状がありません。数年から10数年の

潜伏期を経て、上腹部の不快感や膨満感が現れます。しだいに肝機能障害に伴うだるさや黄疸等の症状が現れます。放っておくと肺や脳に病巣が転移したり、命にかかわることもあります。

エキノкокス症は、予防できる病気であり、早期発見、早期治療が大切です。感染のおそれがある方は、各市町村が実施する健康診断（血液検査）を積極的に受診しましょう。

[横山 裕之] 沙流・千歳